

小さな一歩で広がる世界

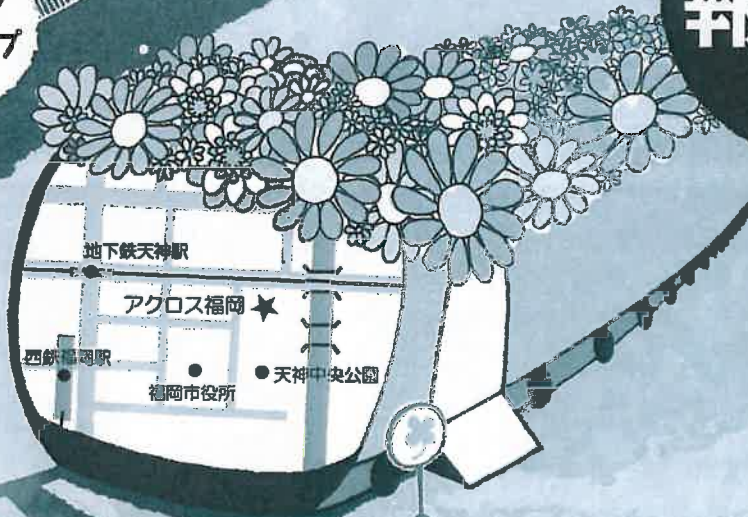
国際協力フェスタ 地球市民 どんたく 2009

NGO
活動紹介
ブース

ワーク
ショップ

報告書

国際協力
セミナー



1階アトリウム
参加団体の活動写真を展示しています。

2009年 10/10(土)11(日)

11:00~17:00 入場無料

アクロス福岡2階「交流ギャラリー」、1階「アトリウム」
(福岡市中央区天神1-1-1)

主催：「地球市民どんたく2009」実行委員会、財団法人福岡国際交流協会

共催：外務省、独立行政法人国際協力機構(JICA九州)、福岡市

後援：朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社
特定非営利活動法人九州海外協力協会

協賛：財団法人西日本国際財団

協力：財団法人太宰府市国際交流協会、前原市国際交流協会
宗像地域国際交流連絡協議会、志免町国際交流町民会議

特別協力  タイ国政府観光庁



タイムスタンプラリー

団体の活動に関連するクイズに答えながら、ブースをまわりスタンプを集めよう。もれなく、素敵なプレゼントがもらえます。ぜひ、チャレンジしてください。



■全体概要

実行委員会(ブース出展団体 28団体)

連絡・情報共有

運営委員会(正副実行委員長、JICA九州、財福岡国際交流協会)

運営に関わる協議・決定

運営スタッフ(ブース出展団体より数名)

セミナーに関する企画・運営

事務局 財福岡国際交流協会

11年目を迎えた「地球市民どんたく」は、国際協力及びNGO活動に対する市民の関心を高め、NGOの相互ネットワークづくりを目的に、「NGO活動紹介ブース」「国際協力セミナー」「ワークショップ」を行った。福岡で活動中のNGO・国際交流団体と(財)福岡国際交流協会で行実行委員会を組織。今年はアクロス福岡に会場を移しての開催となり、アクロス福岡1階アトリウムでの展示やスタンプラリーなど、新たな企画も行った。

■NGO活動紹介ブース

と き：2009年10月10日(土)、11日(日) 11:00～18:00

と ころ：アクロス福岡 2階交流ギャラリー



国際協力・国際交流を行う団体(10月10日(土)は23団体、11日(日)は26団体)が、写真パネル展示、資料配付、民芸品の販売などを通じて活動紹介を行った。来場者が「参加体験」できるブース展開をし、各団体の特徴が活かされ、来場者にも好評であった。今回は、参加団体に関するクイズに解答していくスタンプラリーを導入し、来場者が気軽に各ブースを回ってもらうことで、世界の現状の理解、市民の国際協力活動への参加のきっかけづくりとなった。また、会場が屋内となって、NGO活動紹介ブースのスペースは狭くなったものの、会場の一体感が増し、例年以上にNGO関係者同士の相互理解が進んだ。当日の運営は、実行委員会及び当日運営ボランティアが中心となって行った。

[参加者及び支援の受付状況]

- 1 来場者数 約1,000人
- 2 寄付の受付状況 【募金】1,543円及び外貨
【切手】約203枚
【はがき】525枚

[来場者の声]

「どの団体も仲良さげで、楽しい雰囲気の中に国際協力をしている素晴らしさが表れていた」
「恵まれない国の人々の為に、温かい活動をしているので感動した」
「子ども達も楽しめる企画だった」
「明るく工夫しながら行われていて感心した」
「来場者が参加できるのがよかった」
「素朴で、とても好感を持てた」
「展示されている写真が印象的であった」など多数。

地球市民どなたも参加団体によるワークショップ

と き：10月10日（土）、11日（日）
 ところ：アクロス福岡 2階交流ギャラリー



世界の国々や各団体の活動について理解を深めるため、アクロス福岡2階交流ギャラリーにおいて、下記のとおり企画を行った。小さな子どもから大人までが参加し、楽しみながら国際協力・交流に触れることができた。

参加団体によるワークショップ

10月10日（土）

- ①AMIGOS DA BAHIA I
- ②(特活)九州海外協力協会
- ③NPO法人ムナバン・ユニ
- ④(特活)ACE
- ⑤(特活)九州海外協力協会

10月11日（日）

- ①AMIGOS DA BAHIA I
- ②日本中国友好協会福岡支部
- ③福岡・USオークランド友好協会
- ④カンボジア地雷撤去キャンペーン
- ⑤国連NGO世界平和女性連合
- ⑥(特活)九州海外協力協会

民族衣装着付体験コーナー

と き：10月10日（土）、11日（日）

参加費：無料

内 容：アジア各国の民族衣装の着付けを行い、アジア各国の文化や衣装に親しむことが目的。子どもから大人まで約120人が参加。民族衣装を着ての記念撮影も人気であった。

民族衣装の国の内訳

タイ、韓国、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ

スタンプラリー

と き：10月10日（土）、11日（日）

内 容：参加団体の活動内容にまつわるクイズに解答し、全問正解すれば各国の民芸品（参加団体から提供）がもらえるもの。参加団体の活動内容を気軽に楽しく知ることができ、参加団体と来場者とのつながりをつくるきっかけともなった。

その他のイベント



外国人のための入国・在留・国籍に関する無料相談会

と き：10月11日（日）
 ところ：レインボープラザ（イムズビル8F）

主 催：福岡県行政書士会

内 容：日本での生活に必要な在留資格や在留期間、家族の呼び寄せ、国籍、永住、帰化、国際結婚などの問題について、法律と手続きの専門家である申請取次行政書士が質問に答え、アドバイスを行った。

（通訳付：英語、中国語）

相談件数：8件

アクロス福岡アトリウムでの展示

と き：10月10日（土）、11日（日）
 ところ：アクロス福岡 1階アトリウム

内 容：アジア各国で活動している団体が国ごとに5つのブースに分かれて活動写真や民芸品を展示。また、タイ国政府観光庁の協力で借り受けた、サムロー（自転車タクシー）やバンナーなどで、地球市民どなたへの開催を通行人にもアピールした。

地球市民どなたも2009写真展

と き：9月19日（土）～10月11日（日）
 ところ：レインボープラザ（イムズビル8F）

内 容：参加団体のうち9団体が、活動写真を展示。アジア各国の支援先の子どもの笑顔、福岡での活動啓発の様子など、具体的に活動の様子が分かる写真は、訪れる多くの人たちの目を引いた。

国際協力セミナー ～小さな一歩、いま、ここから～

と き：10月11日(日) 13:00～16:30
と ころ：アクロス福岡 7F大会議室(福岡市中央区天神1-1-1)

参加者が、様々な立場で国際協力を知り、実践的な活動に取り組むきっかけをつくることを目的とした。

講
師

岡井 朝子氏 外務省中東アフリカ局アフリカ第二課長
田中 優氏 未来バンク事業組合理事長
松鶴太佳良氏 インターナショナルスクール設立準備中
(コーディネーター)
瀧本 昌平氏 債務と貧困を考えるジュビリー九州



第1部

講演(要旨)

● 外務省基調講演：岡井 朝子氏

一般的日本人のアフリカに対するイメージはとすると、紛争、貧困一辺倒であるが、実は今や世界が注目する「機会と希望の大陸」であり、日本としても第四回アフリカ開発会議(TICAD IV)の公約の着実な履行等を通じ、積極的に関与すべき。

世界では地球規模で解決すべき課題が深刻化しており、各国が個別に対処しても効果は限定的である。関係するアクターも、国とか地方政府だけでなく市民社会や経済界など、力を合わせないと解決できない。国際機関も沢山あるが、それぞれの利点を積極的、効果的に活用しながらパートナーシップを組むべき。

日本は地球規模課題の解決に向けリーダーシップを発揮しているが、その際の日本の理念に、人間の安全保障がある。ODAの実施についてもこの視点は必ず入れていく。最近では国際協力に際し、市民社会や企業との新たなパートナーシップのあり方も模索されている。

ODA予算は、平成9年をピークに12年間で42.5%削減された。9/11事件、MDGsの話ができた2000年頃から他の国は増加に転じたが、日本は逆行するように削減、2005年～06年に若干上回っているのは、債務救済をしたから。その影響がなくなった2007年にガクンと落ちて、ついに5位に転落した。

外務省は、ODAの点検と改善を2005年に降毎年実施している。より効果的に、必要なところに配分するためにはどうしたらいいのか、という問題に答えるために、やり方を改善する努力を重ねている。JICAが円借款部門も統合し、外務省国際協力局は組織改革し、援助の配分を透明性をもってより効果的にやろうとしている。また、制度の改善、ムダ排除の徹底、事業の適正確保、チェック体制の拡充の向上、評価システムや監査システムの強化をし、いまや全案件の評価を行い、全部公表している。

ODAといってもその形態、用途など様々である。ODAは無駄とくる前に、その実態、必要性を踏まえてどうあるべきなのか皆さんで考えて欲しい。

● 田中 優氏

私たちが暮らしているところのすぐ裏側が貧困問題であったり、途上国の開発問題であったりする。私達自身が、どうしてそのような問題に関わっていたのか、そこから話を始めていきたい。私が考えるに至ったのは、リサイクル資源の価格が安くなりすぎて、地域でのリサイクルが成り立たなくなったことからだった。追ってみると、途上国から輸出される新品資源が安すぎて、リサイクル品が太刀打ちできなくなっていたせいだった。その途上国の資源価格の安さに日本のODAや途上国の債務問題が関わっていた。

日本のODAは、他の国は100%贈与なのにに対し、日本は45%しか贈与がない。有償資金は途上国に借金をさせることになる。今や以前貸していた多額のODAの返済額が、現在減らしているODAの額を上回っている国すら多数ある。貧しい人に届かない、援助が必要な人に届かない「援助」は「援助」ではない。

こうしたことに使われるのではない出資の仕組みとして、「未来バンク」を15年前に設立した。融資する対象は、環境にいいこと、福祉、市民の事業にだけである。いまや日本各地に小さな非営利のNPOバンクがある。地域の中に自分たちのお金を残し、自分たちが納得できるところに投資をすればいい。そうすれば地域の経済循環を生み出せる。福岡にも「もやいバンク」ができた。地域の中にお金を循環させることで地域経済を成り立たせれば、私たちが外の世界に迷惑をかけなくて暮らせるようになる。

日本では、グローバリゼーションがいいことのように言われる。しかしこれはトリックだ。例えば、福岡で物をつくって東京に運ぶ場合より、シンガポールから東京に運ぶ運賃のほうが安い。これは、国境線を越える燃料は税金がかからないためである。その結果、貧しい人たちを搾取し、地球温暖化を促進している。防止するのに効果的なのは、「地産地消」つまり、地域のものを食べて、地域で暮らしていくことである。

私の考える、小さな一歩は、私たちの裏側に住んでいる人達に私たちが心を砕くこと、気持ちを届けることだ。思いが至ることが最初の一歩になるのではないが、彼らの思いを理解することが始めの一歩になると思う。

● 松鶴 太佳良氏

4つのセクター(公的機関、学術・研究機関、NGO・市民セクター、民間企業)をわたり歩いてきた。途上国の現場での活動から、「ありがためいわく」な支援はやめよう。日本人としてやるべきことは正しい判断と政策を導き出せるアジアのリーダーの躍出である。という結論を得た。

国連の経験から、国の共同体として変革の土台を実感できたと共に、日本人として出来ることの可能性の限界にも直面した。国の力、個人の力との間に大きな壁が存在する。世界でコンセンサスを集め、調整役ができる本物のリーダーは私欲を捨て、一国のリーダーや組織(企業)のリーダーという枠を超える。よって、「次世代を担うリーダー」は「リーダーの中のリーダー」である必要があることを痛感した。

NGOの経験からは、組織の枠にはまらず、グローバルネットワークを活かした創造的な問題解決能力とムーブメントの実績と広がり可能性を実感した。しかし、「共感性」を軸とした世論形成や行動の限界も同時に実感した。

民間企業では、ゴールドマン・サックスの社会貢献部署に勤務した。大学院時代の研究、国連やNGOでの経験等から、「社会貢献」という考え方に疑問があり、企業が「社会貢献」という部署が立ち上がり活動をしなければならぬ程、企業と社会が隔離されてしまったのはなぜか、という疑問に対する答えを自分自身が体験することで導き出したかった。具体的には、仕事を通じて、社員約2,000人を対象に100のNGO、NPO、社会福祉施設等と200のボランティアプロジェクトの企画・運営を通して、環境保全、子どもの支援、国際協力、など色々な分野で活動されている方々と協働する機会に恵まれた。心があり、行動力がある方々がたくさんいらっしゃることを実感でき、自分のこれからの50年にわたる構想の支えになっている。

これらの経験をしっかりと振り返り、現在事業計画を練っているところだが、様々な壁や使命を超えた共通体験を世界の現実が展開されている現場で生み出すため、既存の教育システムに頼らない、拠点のない、壁のないスクール構想を考えている。福岡にマネージメントの拠点を持ち、海の上(船)と、陸(寄港地)に学びの拠点を置く。対象は、経済的、社会的理由から対象外とみなされる世帯を優先する。

世の中に存在する複雑かつ正解のない、前例のない問いに対しては、まず一歩踏み出し、自分自身の経験から自分自身の行動を導き出すしかないと思う。夢は天国を見上げながら思い描くものではなく、今、この生きている世界で実践し、達成するもの。このセミナーを通して、私も新たな一歩踏み出すように、皆様も何かのきっかけで新しい一歩を踏み出し、お互いに進んでいく中で接点が生まれると嬉しく思う。

コーディネーター：瀧本 昌平氏、パネリスト：岡井 朝子氏、田中 優氏、松鷲 太佳良氏

(岡井氏へ) 政権交代によって変わるもの、変わらないものは何ですか。

岡井： 民主党は、人間の安全保障とMDGsの達成、気候変動の問題に力を入れていると言っているが、これらは前政権でも言っていたこと。新政権は、これまでのやり方に加えて、為替取引を活用する等革新的な資金メカニズムのあり方も検討する意向だ。政権交代により、これからは先取の思想でいくという動きもでてくるのではないかと。

(田中氏へ) 日本の政経をどのように変えていくか、また変わっていくべきと考えますか。

田中： 為替取引があるために、国境を越えて金が動く。国際連帯税を資金源にして、例えば、途上国の債務の免除に使う、などの革新的な動きがでてきている。世界の軍事費1年分を使えば、債務の免除ができるし、世界中の兵器の撤去はできるし、地雷の撤去も、途上国に食糧を届けることも可能になる。

(田中氏へ) 私達がそれを実現させるために、どのような方法があるか。

田中： 社会を変えるために方法は3つある。1つは、タテ。自ら政治家になり、社会を下から上、上から下にかえていくポジションから変えていく。2つ目は、ヨコ。となりの人に話し、多くの人達に伝えることでムーブメントを起こし変えていく。

そして3つ目はナナメ。全く別な仕組みを考え、現実に新たなやり方をやってみせる方法がある。

(岡井氏へ) 外務省には市民やNGOとの連携、対国の場としてのようなものがあるか。

岡井： NGOを通じての支援をもっと広げたいが日本のNGOは財政基盤の面で脆弱であり、限界もある。NGOが国際社会の表舞台にたてるような底上げのための方策も必要で、外務省としても取り組んでいるところ。新政権は、気候変動やMDGsの対策に取り組んでいくにあたり、国際機関やNGOとの連携を強調している。

コーディネーター：1990年代後半から、外務省とNGOの定期協議会を始めている。今度、福岡市でも開催が予定されている。

(松鷲氏へ) インターナショナルスクール協想という若い人たちへのアプローチを考えているが、若い人達だけでなく、

これから国際協力をやっていこうという人達へのアドバイス等ありますか。

松鷲： スクール協想は、学校を建てるのが目的ではなく、そのプロセスでどんな学びの場が必要であるかを見いだすことが重要だと思っている。そのために、色々な方の経験や視点が必要であると思い、現在1,000人の方々へのヒアリングをしている。途上国の現場でも痛感したが、「教育」は最低2世代以上の長期スパンで取り組まなければ意味がない。よって、子どものための事業とは思っておらず、むしろこれから親になる人どう仕事をすることが焦点であり、3世代プロジェクトだ。

田中： 貧しい暮らしの実体験も重要です。識字教育を高めるのに何をしたら一番よいのかという問いに、普通は学校を建てるという人が多い。しかしこれは「高学歴のワナ」ではないか。自分は学校で字を学んだ覚えはなく、全部マンガで覚えた。日本のマンガを現地語にして、子供達が10人お金を出し合つて、やっと買える値段で売る。そうすると、2周回つた時には、子供は字を覚えているだろう。私達には、もっと貧しさの内側から見た視点が必要とされているのではないかと思う。

松鷲： 最貧困国を含む途上国での実体験については、プレゼンテーション中でも触れたが、社会の中に複数の学び場の形があることは重要だと思う。社会の中に学校の形はたくさん必要だと思う。たとえば、現在世の中に100ぐらいのタイプの学校があるとして、私が取り組もうとしているのはその次の1つ、101個目の新しい形の学校を提案することだと思っている。世の中を全部変えようなんてことは思っていない。「新たな1個」で既存の100では満たされない人が、学びの場所を見出し、目標を達成できるのかもしれない。社会にとって必要なものは人々が選り出し、創り出し、市場原理も働き、変化する。既存のものを淘汰する必要は全くなく、社会の変化や将来のビジョンを描き、しっかり見据えながら、私は自分自身の問題意識と向き合い事業を進めるが、同様に、それぞれの方々が102個目、103個目と、新しい形を世の中に生み出していく力を発揮すれば、それが社会変革なのだと思う。

コーディネーター：現在、世界の最も豊かな500人の収入が、世界の最も貧しい4億1,600万人の収入の合計よりも大きく、格差が広がっている。ソフト面の充実を図り、MDGsの達成に向け志気を高めていくということを皆でやっていかなくてはいけない。

参加者の感想 (抜粋)

【岡井 朝子氏のお話について】

普段、外務省の方とお話をする機会がないので、どのような考えを聞けるのか楽しみにしていました。一般の自分でもよく分かるような言葉を選んで話していただいて、とても分かりやすかったです。／岡井氏のアフリカの話、とても興味深く聞きました。

【田中 優氏のお話について】

今、ちょうどゴミ問題を学習しているので、田中さんのお話がとても参考になりました。／田中氏のリサイクルの話もナルホドと思いました。／田中氏のお話は分かりやすく、大変心を動かされました。

【松鷲 太佳良氏のお話について】

松鷲氏は若くして、目的がはっきりしていて、学生にたくさん聞いて欲しかった。／松鷲さんの人生の考え方、外国等を見て回る積極性に感動しました。

【セミナー全体について】

このセミナーに参加して、また、3者よりお話を伺って、世界、日本、個人の考え方の流れが変わってきていると感じた。昨年まで会社組織の一員として社会貢献の手伝いをしてきたが、これから個人としての一歩を踏み出します。／今回の講演を聞いて、ODAについての考え方が大きく変わりました。本当に貧困に苦しむ人を救える方法とは、また環境問題へどのようにアクセスすればよいのか、自分の中に新たな見る角度ができたと思います。／様々な立場の異なる3人の講師のお話が聞け、国際協力について自分なりに考える材料となりました。／外務省側(政府側)からと、市民側からの話が聞けたのがよかったです。

INGO活動紹介ブースの様子



広報状況

①新聞【告知】

毎日新聞 10月8日(木)朝刊、読売新聞 10月9日(金)朝刊

②ラジオ【告知】

LOVE FM 「Community Spotlight」

③タウン情報誌等【告知】

「イムズクリップ」10月号、

「市政だより」9月15日号

「ACROS」10月号

フリーペーパー (「Campus 九州」「フクオカ・ナウ」)

④ウェブ【告知】

あすみん情報便 <http://www.fnvc.jp/>

ふくおか協働Web <http://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/portal/>

北九州市市民活動サポートセンターメールニュース

⑤その他

アジアマンス公式ガイドブック、各団体のHP、各団体の会員さんへの働きかけ、各所でのチラシ配布、様々なHPへの掲載、福岡国際交流協会、福岡市の広報媒体

「地球市民どんたく2009」を終えて



地球市民どんたく2009実行委員長
牟田 慎一郎
(ハビタット福岡市民の会 代表)

今回で11回目の「地球市民どんたく2009」は、過去3回のアジア太平洋フェスティバルとの同時開催ではなく、アクロス福岡2階の交流ギャラリーでの単独開催ということで、集客が懸念されましたが、多くの皆様のご協力で人の流れがとぎれることなく、たくさんの方々にご来場いただき、無事終了することができたことを嬉しく思います。

「地球市民どんたく」の目的は、国際交流や国際支援に取り組むNGOの活動を広く市民の皆さんに知っていただくとともに、NGO相互の交流を促進することです。

今回は、室内での開催ということで、お天気に左右される心配もなく、会場も従来よりやや広く、28団体という多くのNGOのみなさんに参加していただきました。この2日間のイベントを通じて、来場者の皆さんはもちろんのこと、それぞれの団体同士や運営に携わったスタッフやボランティアの皆さんとの有意義な交流ができ、これからの活動に弾みがつ

いたことと思います。

また、セミナーについては、イベント2日目にブース展示と同じアクロス福岡の7階大会議室での開催となりました。外務省からアフリカ第二課長岡井朝子氏にお願いいただき、「希望と機会の大陸」アフリカと題し、ODAの現状などを含めて非常に分かり易くお話しいただきました。引き続きそれぞれの立場から、田中優氏と松鶴多佳良氏にお話しいただきましたが、いずれも皆を惹きつけるお話しでした。もっと聞きたかったという意見も数多くありました。続くパネルディスカッションでは、コーディネーターを瀧本昌平氏にお願いし、活発な意見交換が行われました。かなりハイレベルなディスカッションだったにもかかわらず、高い視点から自分たちのNPO活動を見直す絶好の機会になったとの意見が多く、意義深いものとなりました。

参加されたNPOの皆さん方や事務局をはじめスタッフの皆さんの頑張り、非常に有意義な楽しい地球市民どんたくとなったことに、心より深く感謝申し上げます。これを機に、福岡におけるNPOの活動が広く市民の皆さんに認知され、活動の幅が広がり、さらに充実し活発になることを祈念してご挨拶いたします。